

# 松浜の池（新潟市松浜阿賀野川河口）の植物

笹川 通博

新潟市松浜阿賀野川河口の右岸側、街と海岸を隔てる堤防の海側に、およそ3haの池があります。池は真ん中あたりがくぼんでいて、伸びたひょうたんのような形をしています。砂浜に凹みに、なんらかの原因で水がたまったのでしょう。風加減一つ、波加減一つで、あっという間に砂に埋れてしまいそうな池です。池のまわりは湿原になっています。魚釣の人が入って来ますが、他に入り込む人は少ないようで、あまり荒れていません。多くのトンボが生息しているということで、知る人ぞ知る場所のようです。

私は以前、1989年に一度、それから、1993年に建設省の「河川水辺の国勢調査」の一環として植物の現地調査をしています。1989年の調査結果は「新潟市松浜のホザキノフサモ群落」として、新潟県植物分布図集第10集（1989）に掲載されています。また、1993年の調査結果は「河川水辺の国勢調査 平成5年度 阿賀野川水系（阿賀野川・早出川）植物調査 報告書」の中にまとめられています。これらの調査結果から確認した植物を書き出しますと別表のようになります。

特に注目すべきものは、ホザキノフサモの群落があることです。ホザキノフサモは水中に生育する水草で、金魚鉢に入れる「きんぎょも」の仲間だと思って頂いてもよいでしょう。新潟市内でホザキノフサモの生育が確認されているのは、現在はここだけです。かつては鳥屋野潟にも生育

していたそうですが、今はありません。平野の湖沼に生育する植物なので、その湖沼の環境が破壊されれば、生育を脅かされます。水草には他にもトチカガミ、ミズユキノシタ、エビモ、マツモ、クロモ、ヒシなどが生育します。フサジュンサイ（ハゴロモモ）も多く生育しますが、これは帰化植物なのであまりありがたくありません。また、池のまわりの湿原は貴重なものです。このような人の手のあまり入っていない湿原は、新潟市内にはほとんどないと思います。ヤガミスゲは県内でも比較的珍しいものです。岸の傾斜が緩やかなため、細かい環境の違いができ、多くの種の植物が生育できるのでしょうか。トンボが多く生息できるのも、このような自然の状態の湿原があるからではないでしょうか。

松浜の池は陸地化が進むことによって、あるいは、大波や強風で、やがては消滅すべき運命にあると思います。しかし、人の手によって消滅させてはいけません。本来ならばある池が自然に消滅しても、他の池が残っていたり、新しく池ができたりのでしょう。ここに住むトンボや植物たちは、一体どこからやって来たのでしょうか。彼らは都会の中の追い詰められたほんの一カ所に、辛うじてその生を留めているのです。この池は彼らにとって最後のオアシスなのです。

[別表]

## 松浜の池（新潟市松浜阿賀野川河口）の植物相

河川水辺の国勢調査「平成5年度 阿賀野川水系（阿賀野川・早出川）植物調査 報告書」（1993年5月4日、7月11日、9月11日に現地調査）による。（1989年調査）とあるのは、1989年9月15日の現地調査による。（帰）：帰化植物

とくさ科：スギナ

くるみ科：オニグルミ

やなぎ科：エゾノキヌヤナギ・カワヤナギ・シロヤナギ  
（1989年調査）・タチヤナギ

えのき科：エノキ

くわ科：カナムグラ

たで科：アキノウナギツカミ（1989年調査）・アレチギンギシ（帰）・イシミカワ・エゾノギンギシ（帰）・オオイヌタデ・ギンギシ・ケイタドリ・スイバ・トゲソバ・ヒメスイバ（帰）・ミゾソバ

やまごぼう科：ヨウシュヤマゴボウ（帰、1989年調査）

なでしこ科：オランダミミナグサ（帰）・ミドリハコベ

ひゆ科：ヒカゲイノコズチ・ヒナタイノコズチ

もくれん科：ユリノキ（植栽逸出）

すいれん科：フサジュンサイ（帰）

まつも科：マツモ

おとぎりそう科：コケオトギリ

あぶらな科：スカシタゴボウ・タネツケバナ

べんけいそう科：コモチマンネングサ

ばら科：ノイバラ

まめ科：イタチハギ（帰）・クサネム・コマツナギ・シロツメクサ（帰）・ツルマメ・ニセアカシア（帰）・ネムノキ・ハマエンドウ・フジ・メドハギ・ヤブマメ・ヤハズエンドウ

かたばみ科：カタバミ

ふうろそう科：ゲンノショウコ（1989年調査）

にしきぎ科：オニツルウメモドキ・マサキ  
 ぶどう科：エビヅル・ツタ  
 うり科：キカラスウリ・ゴキヅル  
 みそはぎ科：ミソハギ  
 あかばな科：アカバナ (1989年調査)・チョウジタデ (1989年調査)・ミズユキノシタ・メマツヨイグサ (帰)  
 ひし科：ヒシ  
 ありのとうぐさ科：ホザキノフサモ  
 せり科：セリ・ドクゼリ  
 もくせい科：エゾイボタ・ミヤマイボタ  
 ががいも科：ガガイモ  
 あかね科：ヤイトバナ・ヤエムグラ・ホソバノヨツバムグラ  
 ひるがお科：ハマヒルガオ・ヒルガオ  
 むらさき科：スナビキソウ  
 しそ科：イヌゴマ・カキドオシ・コシロネ・シロネ・ニガクサ・ヒメジソ・ヒメナミキ  
 なす科：クコ  
 ごまのはぐさ科：ウンラン・タチイヌノフグリ (帰)  
 すいかずら科：キンギンボク  
 きく科：アキノノゲシ・アメリカセンダングサ (帰)・オオアレチノギク (帰)・オオアワダチソウ (帰)・オトコヨモギ・オニノゲシ・カワラヨモギ・キクイモ (帰)・ノゲシ・ノボロギク・ハマニガナ・ヒメジョオン (帰)・ヒメムカシヨモギ (帰、1989年調査)・ブタクサ (帰)・ブタナ (帰)・ヨモギ・トゲチシャ (帰)

とちかがみ科：クロモ・トチカガミ  
 ひるむしろ科：エビモ  
 ゆり科：ニラ (栽培逸出)  
 やまのいも科：ナガイモ (栽培逸出)  
 あやめ科：キシウブ (帰)  
 つゆくさ科：ツユクサ  
 いぐさ科：イグサ・クサイ・コウガイゼキショウ  
 いね科：アキノエノコログサ・イヌムギ (帰)・イヌビエ・ウシノシッペイ (1989年調査)・オギ・オヒシバ・カモジグサ・ギョウギシバ・ケカモノハシ・コヌカグサ・コバンソウ (帰)・コブナグサ・シナダレスズメガヤ (帰)・スズメノカタビラ・チガヤ・トダシバ・ナギナタガヤ (帰)・ヌカキビ・ハマニク・ハルガヤ・ヒゲナガスズメノチャヒキ (帰)・ヒロハノウシノケグサ (帰)・マコモ・ムギクサ・メヒシバ・ヤマアワ・ヨシ  
 さといも科：ショウブ  
 うきくさ科：ウキクサ・コウキクサ  
 がま科：ヒメガマ  
 かやつりぐさ科：アゼナルコスゲ・ウキヤガラ・ウシクグ・カサスゲ・カヤツリグサ・コウボウシバ・コウボウムギ・サンカクイ・タマガヤツリ・チャガヤツリ・ハタガヤ・ヒメクグ (1989年調査)・ビロードスゲ・マツバイ (1989年調査)・ミズガヤツリ (1989年調査)・ヤガミスゲ (写真)・ヤマイ  
 らん科：ネジバナ



[写真] 県内稀産のヤガミスゲの生育 1994. 7.